

外国人による日本語弁論大会のあゆみ

日本が国際社会の一員として積極的にその意義と責任を果たすためには、日本人一人一人が諸外国の文化・伝統に対する理解をもつと同時に、日本に対する外国人の理解を深めることに努力を傾注しなければなりません。

この大会は、多くの外国人が日本語を話すことにより日本人および日本に対する理解を深め、わが国との友好親善、相互理解に寄与することを目的として1960年より毎年開催されています。39回（1998年）以降は、それまでの東京開催から、各地の国際交流活動の活性化に伴い地方都市における開催を継続しております。39回大会は岐阜市で、以降、福岡市、長崎市、上越市、大阪市、札幌市、高知市、米子市、下関市、泉佐野市、川崎市、函館市、新潟市、別府市、北九州市、松江市で開催されました。今年は、東近江市のご協力のもと開催されることとなりました。

本大会の様子は、

7月12日(日)午後3時～4時 NHKEテレで放送予定

(※放送日時が変更になる場合があります。)

次回第57回大会のお知らせ

2016年6月18日(土)に岐阜県高山市「高山市民文化会館」にて開催を予定しております。詳細が決まりましたらホームページにてお知らせいたします。

(www.iec-nichibei.or.jp)

ご来場の皆様へ

本弁論大会には、会場に日本放送協会からカメラ数台が入り、出場者だけでなく、会場内の様子も撮影いたします。後日、番組内で皆様のお姿が映ることもありますので事前にご了承下さい。

会場内での録音・録画・撮影は禁止です。携帯電話の電源をお切りください。

2015 The 56th International Speech Contest in Japanese

聞いてください、私たちが見た日本、感じた世界。

第56回 外国人による 日本語弁論大会



東近江市制10周年記念

プログラム



日時 平成27年6月13日(土) 13時 開始(開場12時)

場所 東近江市立八日市文化芸術会館

〈主催〉

国際教育振興会 国際交流基金

東近江市

〈後援〉

外務省/文化庁/東近江市教育委員会/八日市商工会議所/東近江市商工会/東近江国際交流協会
滋賀県/滋賀県教育委員会/NHK/NHKエデュケーショナル/日本語教育学会

〈協賛〉

株式会社クレフィール湖東/サントリースピリッツ株式会社/学校法人滋賀学園/布引焼窯元
カルピス株式会社/キッコーマン株式会社/専門学校新聞社/にほんごの凡人社/リコージャパン株式会社/留学生新聞

プログラム

第56回大会には、26カ国、81名の応募があり、4月30日(木) 予選審査を行った結果、11カ国、12名の方々が出場されることになりました。

第一部

スピーチコンテスト **13:00～**

- 開会式
- 開会の辞 亀岡 雄 国際交流基金上級審議役
- 出場者紹介、審査員紹介、ルール説明、後援・協賛団体紹介
- 前半 **13:20～** 6名
休憩
- 後半 **14:25～** 6名
休憩

第二部

スピーチコンテスト出場者を囲んでのトークセッション **15:30～**

- 特別ゲスト: にしゃんた 羽衣国際大学 教授
- 休憩
 - 閉会式 **16:10～**
 - 挨拶 高田 真里 外務省文化交流・海外広報課長
岸本 織江 文化庁文化外部語課 課長
 - 審査員講評 迫田 久美子 審査員長
 - 審査結果発表
 - 閉会の辞 小椋 正清 東近江市長

●時間は進行により前後することがございます。

特別審査員

にしゃんた 羽衣国際大学教授

審査員

迫田 久美子 国立国語研究所 日本語教育研究・情報センター教授
審査員長

賀川 昌明 びわこ学院大学 学長

富田 正敏 滋賀報知新聞社 代表取締役社長

熊埜御堂 朋子 NHK制作局第1制作センター、青少年教育番組部長

(順不同)

司会進行

サヘル・ローズ

(敬称略)



にしゃんた

1969年、スリランカのキャンディー市(世界遺産)生まれ。高校生だった87年にボーイスカウトで初来日。その翌年に留学のため再来日をし、立命館大学に入学。新聞奨学生をしながら大学在学中に全日本空手道連盟公認四段・全国空手道連盟公認指導員を取得したほか、多数の弁論大会に出場し優勝する。大学卒業後、大学院に進み、経済学の博士号を取得。現在は京都に在住し、羽衣国際大学で教鞭をとる傍ら、テレビ・ラジオ出演、講演会や執筆活動などを行っている。2005年日本国籍取得。08年日本女性と結婚、一男一女の父。



サヘル・ローズ

1985年、ペルシャ(イラン)生まれ。8歳の時に養母と共に来日。高校時代から芸能活動を始め、J-WAVEでラジオDJデビューし、女優、タレント、キャスターとしてTV、ラジオ、映画、舞台と活動中。現在、「探検バクモン」(NHK総合) 進行役、「世界番付」(日本テレビ)、「スーパー」チャンネル(テレビ朝日)、「ノンストップ!いいものプレミアム」(フジテレビ)「サヘル・ローズのイチオシNIPPON」(BS12 TwellIV)などレギュラー出演中。

1. 会場審査員賞

- Fatoumata Bintou Diop
- セネガル
- 船橋市在住 日本文化・宗教研究者

ファトゥマタ ビントゥ ディオプ



日本の文化・精神で国、世界を救おう!

幼い頃から科学、宗教、文化の勉強が好きでした。高校生の時、日本の歴史に興味を持ち、独学で勉強するようになりました。さらに、日本文化、精神に関する知識を深めるために3年前に来日しました。日本人と接し日本精神の素晴らしさを感じました。それを一人でも多くの方々に伝えさせていただきたいと思い、この大会に応募しました。

2.

- Alimansyar
- インドネシア
- 東北大学 大学院生

アリマンシャル



「造り変え」の文化

来日は3回目、合わせて7年間くらい日本に住んでいます。その間ずっと日本のオリジナル文化は何か、を探し続けていますが、未だ見つかっていません。私にとって日本は謎だらけの国です。ただ、遠藤周作の『沈黙』に「この国は沼地だ」と書かれていました。日本にはどろどろの沼地のような部分があり、そこに入るとどんなものでも飲まれて変わってしまうという意味だそうです。おそらくそれは日本には「造り変える力」があるからです。これこそが日本のオリジナル文化ではないのかと考えはじめています。この本から刺激を受け、別の観点から自分なりに日本の「造り変え」の文化について取り上げてみたいと思い、この大会に応募しました。

3.

- Lin Zeyu
- 中国
- 千葉市立稲毛高等学校 高校生

リンタクウ(林 澤宇)



日本人は一目で分かる

私のニックネームは天然です。新しいことに挑戦するのが大好きです。昨年9月、上海から日本に留学して以来、茶道や琴の授業を受けたり、弦楽オーケストラ部に入って、チェロを弾き始めました。テニスやカヌー、乗馬も体験しました。挑戦を楽しむには自分の心をいつも開いていることが必要です。それが出来れば、たくさんの友達もできます。それが国際交流の第一歩に違いないと思います。

7. 文部科学大臣賞

- Andre Ramon Perez
- アメリカ
- 宮城県庁 国際交流員

アンドレ ペRez



どうすれば忘れないのか

気の利いた事が言いたい時に限って月並みな事しか思い浮かばないものですね。人生は不思議なものです。今日はどうすれば忘れないのかと、この問題の心の「不思議」による解決法と、私が日本での仕事を通して体験して感じた、忘れない事の大切さについてお話をさせて頂きたいと思います。私の話が、皆さんにとって「忘れられない」話になればと願っております。本日は私の話を聞いて下さり、誠にありがとうございます。

8. 外務大臣賞

- Janelle Joyce Sarmiento Cahilig
- フィリピン
- 横浜デザイン学院 専門学校生

ジャネルジョイスサーミアントカヒリグ



心の種、私の言の葉

内気だった私を変えたのは、日本の歌でした。新しい自分を見つけたのは、日本語という美しい言語との出会いがあったからです。ですが、どんなに聞いても、歌っても、話しても、どうしても理解できない言葉はたくさんあります。解らないのに、なぜこんなにも自分の感情の表現が豊かになるのか。日本に行ったら分かるかもしれない。そんな気持ちを抱き、日本に来ることを決めました。来日して、思った判ったこと、そして感じたこと、私の心の種をこの大会を通じて皆様に伝えたいと思います。

4.

- Duro Agota
- ハンガリー
- 広島市立大学 大学院生

ドゥロー アーゴタ



私の人生を変えた経験:広島との出会い

最初に日本に来たのは2010年の秋です。デブレツェン大学からの交換留学生として、青森県の弘前大学に一年間留学しました。帰国後デブレツェン大学を卒業、2013年に文部科学省から奨学金を受けることになったため、4月に改めて来日し、研究生として一年半弘前大学で過ごしました。そして昨年10月に広島市立大学博士後期課程に入学、弘前でも研究していた「広島原子爆弾投下の集団記憶と在韓被爆者」について、引き続き広島で研究しています。この研究を始めて平和の重要性に関して気付いたこと、感じたことが沢山あるので、この機会に皆様にこの経験を伝えられたら、と思います。

5.

- Dashibileg Zandarmaa
- モンゴル
- 東洋大学 大学院生

ダシビレグ ザンダルマー



留学を通してみる母国モンゴルの今後

私の日本語と出会ったきっかけは偶然のことでした。当時、高校3年生だった私が、日本の外務省のプロジェクト「21世紀東アジア青少年大交流計画」に参加し10日間日本を訪れる機会を与えられたのが始まりです。それ以来、日本語を猛勉強し、3年前にようやく日本留学の夢が叶えられました。そして憧れの日本でこのような立派な弁論大会に出場できることは私にとって名誉なことです。

6.

- Li Yue
- 中国
- 同志社大学 大学生

リュエ(李月)



シュウカツ

昨年の9月に日本に留学に来ました。今は別科生として、日本語を勉強しています。大学院への進学も考えています。日本の伝統文化の魅力に引かれ、茶道や百人一首などを習い始めました。また、日本人の方々に中国語を教えています。将来は日中友好のために、中国語教師になりたいと考えています。

10.

- Nebibanga Evina Guy Bertin
- カメルーン
- 高知工業高等専門学校 高等専門学校生

ネビバンガエビナギー ベルチン



失敗した企みから

日本に来て文化の違いを感じたものは「日本食」です。また、とても感心したものは「おもてなし」です。2004年にノーベル平和賞を受賞したマータイさんは世界に「もったいない」を紹介しましたが、私は「おもてなし」をカメルーン・アフリカ、世界中に広めたいです。

11. 主催団体賞

- Olesik Paula Ewa
- ポーランド
- 兵庫教育大学 大学生

オレシク パウラ エヴァ



逆さまの世界を楽しむ

私は小さい時からずっと恥ずかしがり屋で、知らない人と話すのは苦手でした。大学に入ってから徐々に話せるようになりました。ポーランド人か、日本人か、それは関係ありません。弁論大会では、いろいろな人と出会って、新しい友達を作る機会だと思い参加しよう決めました。

12.

- Merve Dag
- トルコ
- 名古屋大学 大学生

メルベダー



私のジャパニーズ・フィッシュ

多くの日本人観光客が訪れるツアー会社で、運転手として働いている親日家の父親の娘です。このメルベという私の名は父の知人である日本人に付けられたそうです。ですから、生まれたころから私は日本と縁が出来ていると思います。高校生の時、よく魚を飼ったことから『ジャパニーズ・フィッシュ』というあだ名で呼ばれていました。今日は私のジャパニーズ・フィッシュについて皆さんにお話しします。